

武雄市は平成24 年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていたけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、

今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和7年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（御船が丘）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 2 入学 現 6 年生	国語		算数		理科
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時	6 年時
	県	全国	県	全国	全国
	58.1	62・0	62.1	55.0	55.0
	(0.96)	(0.97)	(1.02)	(1.02)	(1.00)
R 7 正答率の全国比		0.93		0.95	0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 7 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・全体の平均正答率は、県平均を下回っている。
- ・学習指導要領の内容別では、ほとんどの内容において県平均を下回っている。しかし、「書くこと」においては 2.3 ポイント上回っている。
- ・問題形式では、短答式において県平均を 3.7 ポイント下回っている。
- ・問題の無解答率は、どの問題においても県平均よりも低い。

【算数】

- ・全体の平均正答率は、県平均を上回っている。
- ・学習指導要領の領域別では、「B 図形」を除いて、県平均を上回っている。
- ・問題形式では、どの区分も県平均を上回っている。特に、記述式において県平均を 4.1 ポイント上回っている。
- ・無回答率は、ほとんどの問題において県平均を下回っている。「 $3/4+2/3$ について、もとにする数を同じに数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また $3/4$ はその数の何個分、 $2/3$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。」という記述式問題での無回答率が 8.3 ポイントと最も高い。

【意識調査】

- ・「5 年生までに受けた授業でのタブレット等の ICT 機器使用頻度」について、「ほぼ毎日（1 日に複数の授業で活用）使用した」と答えた児童の割合は 50.0%で、県平均を 39.6 ポイント上回っている。
- ・「月曜日から金曜日までの 1 日あたりの勉強時間」について、「30 分より少ない」と答えた児童の割合は 18.4%で、県平均を 4.7 ポイント上回っている。
- ・「土曜日や日曜日の 1 日あたりの勉強時間」について、「1 時間より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合は 62.2%で、県平均を 4.1 ポイント上回っているが、同校の令和 6 年度調査結果との比較では、ポイント 2.3 ポイント改善している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・学力向上対策評価シートの共通実践では、全授業で、友達と学び合う場面を設定したり児童が自分のペースで学ぶ時間を考えたり主体的に学んだりする場面を設定したりし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ることを設定している。校内研修や校内研究を活用しながら、学力向上に向けて全職員で授業改善に取り組む。
- ・どの教科でも読み取りを正しく行えるように、大事な情報や聞いてある文に印をつける習慣化を図ることで、児童の基礎・基本力を高める。
- ・条件に合った文書を書くことができるように、自分の考えを書いたり説明したりする時間の確保や条件付き作文に取り組む活動の充実に努める。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・普段（月曜日～金曜日）、読書をする時間が県や全国よりも短いことから、読書を習慣化できる取り組みについて、家庭と連携しながら取り組んでいく必要がある。
- ・家庭学習の時間が県や全国よりも短いことから、家庭での計画的な時間の使い方や、家庭学習の内容や取り組みせ方についても工夫する必要がある。